

小学校

平成 11 年 度

教育研究員研究報告書

生 活

東京都教育委員会

平成11年度

教育研究員（生活）名簿

地区名		学校名	氏名
新 台 目 荒 小 日 大 板 練 大 世 調 清	宿 東 黒 川 井	江戸川小	◎小澤 恵智子
		浅草小	○兼子 美保
		上目黒小	堤 敦子
		尾久宮前小	加藤 由貴子
		本町小	相川 澄子
	金 野 島 橋 馬 田 谷 布 瀬	日野第七小	斉藤 和貴
		泉津小	井上 文章
		稻荷台小	○往古 靖子
		大泉学園桜小	稲田 めぐみ
		調布大塚小	床爪 牧子
田	千歳小	山路 岸子	
	多摩川小	生島 久資	
	清瀬第十小	原田 藤子	

◎ 世話人 ○ 副世話人

担当 都立教育研究所教科教育部 指導主事 渡邊 守

目 次

I 研究主題について	2
「児童の気付きを生かし、かかわりを深めるための支援の工夫」	
研究主題設定の理由	2
II 研究の構想	4
III 研究の内容及び方法	5
IV 研究の結果と考察	5
1 研究の基本的な考え方	5
2 実態調査	10
3 授業実践	12
第1学年「6年生となかよし」	12
第2学年「おもちゃをつくってあそぼう」	18
V 研究の成果と今後の課題	24

<概 要>

児童がより意欲的・主体的に対象に働きかけ、かかわりを深めていくためには、教師が児童の多様な気付きを見取り、新たな活動の中に生かす支援を工夫していく必要があると考えた。そこで、児童の気付きに視点をあて、その気付きを生かす支援をどのようにすればよいのかを授業実践を通して考察した。

その結果、「意識化する」「価値付ける」「共有化する」「方向付ける」「関連付ける」という、児童の気付きを生かす5つの支援の方向が明らかになった。そして、そのような支援をすることにより、自分に自信をもって意欲的に人や環境にかかわる児童の姿が見られるようになった。

I 研究主題について

平成11年度 生活部会研究主題

児童の気付きを生かし、かかわりを深めるための支援の工夫

研究主題設定の理由

〈児童の実態から〉

1年生が入学してまもなく、マリーゴールドの種をまいたA児の鉢から3本の芽が出た。A児は、大切に世話をし、毎日かかさず水をやっていた。そして数日がたったとき、A児は次のようにつぶやいた。

「3つとも大きさが違うよ。階段みたいだ。」

A児の発見であり、気付きである。それに対して教師は、

「ほんとだね。すごい発見だね。」とほめ、認める支援を行った。そのことで自信をもったA児は、目を輝かせながら、さらに次のような言葉を続けた。

「まるで成長しているみたいだ。」

教師の言葉かけ一つが、A児に自信をもたせるとともに、さらなる気付きを呼び起こす支援となった。そして、そのことでA児は、自分が育てているマリーゴールドが命をもち、成長しているとの見方を深めていた。

次に、教師が、そのマリーゴールドの鉢をデジタルカメラで撮り、翌日にはA児の言葉とともに教室に掲示してクラスに紹介すると、さらに多くの変化が見られた。A児はもとより、多くの児童が、自分の鉢の芽を注意深く観察したり、一層意欲的に世話をするようになった。また、その様子を教師に伝えたり、「はっけんカード」に書いて教えたりするなど、新たな活動へ広がっていった。

マリーゴールドを育てているB児は、「一番大きいのはお父さんで、中くらいのはお母さんで、一番小さいのは子どもなんだよ。」と話した。

A児の気付きを聞いたB児は、自分の鉢でも確かめ、自分なりの言葉で伝えた。B児は、友だちの気付きをきっかけに、自分のマリーゴールドへの親しみを深めていった。

このように児童の気付きをクラス全体に広め、共有化することで、多くの児童の対象に対するかかわり方がより深く、より愛着をもってなされるようになった。



〈生活科の課題から〉

生活科の活動が楽しいままで終わらずに、児童一人一人が自分のよさを発揮し、生きる力になっていくようにすることが、今日的課題になっている。

そのためには、児童が学習材に対して主体的にかかわり、その中で生じた気づきを大切にすることが必要である。「活動あって、学びなし」という生活科への批判は、児童の気づきが十分に生かされていないことへの警鐘である。教師は、児童の気づきに対して、より積極的に、より意図的に働きかけていく必要があると考える。

しかし、児童の気づきを生かすためには、次のような課題が考えられる。

第一に、気づきについての概念が、十分に理解されていないことが多い。

第二に、気づきを見取ることの難しさがある。気づきとは、本来児童一人一人が独自に獲得していくものであるため、多様なものであり、さらにその表現の仕方も児童一人一人異なっている。多くの児童のこうした気づきを一人の教師がどのように見取っていくのが次の課題である。

第三に、教師が気づきを見取った際に行われる支援が、児童のかかわりを深めるのに、よりよい支援であるかどうかという課題である。ほめることで自信をもたせ、意欲を高めたいのか。また、他の児童やクラス全体に広めることで、活動への新たな視点をもたせたいのか。それまでの児童の経験や知識と関連させることで、対象への見方やかかわり方を深めたいのかなど。教師は、児童の気づきに対して、どのような支援をすれば児童の活動をより活発にし、かかわりを深めることができるのかを想定しておく必要があるのではないかと考える。

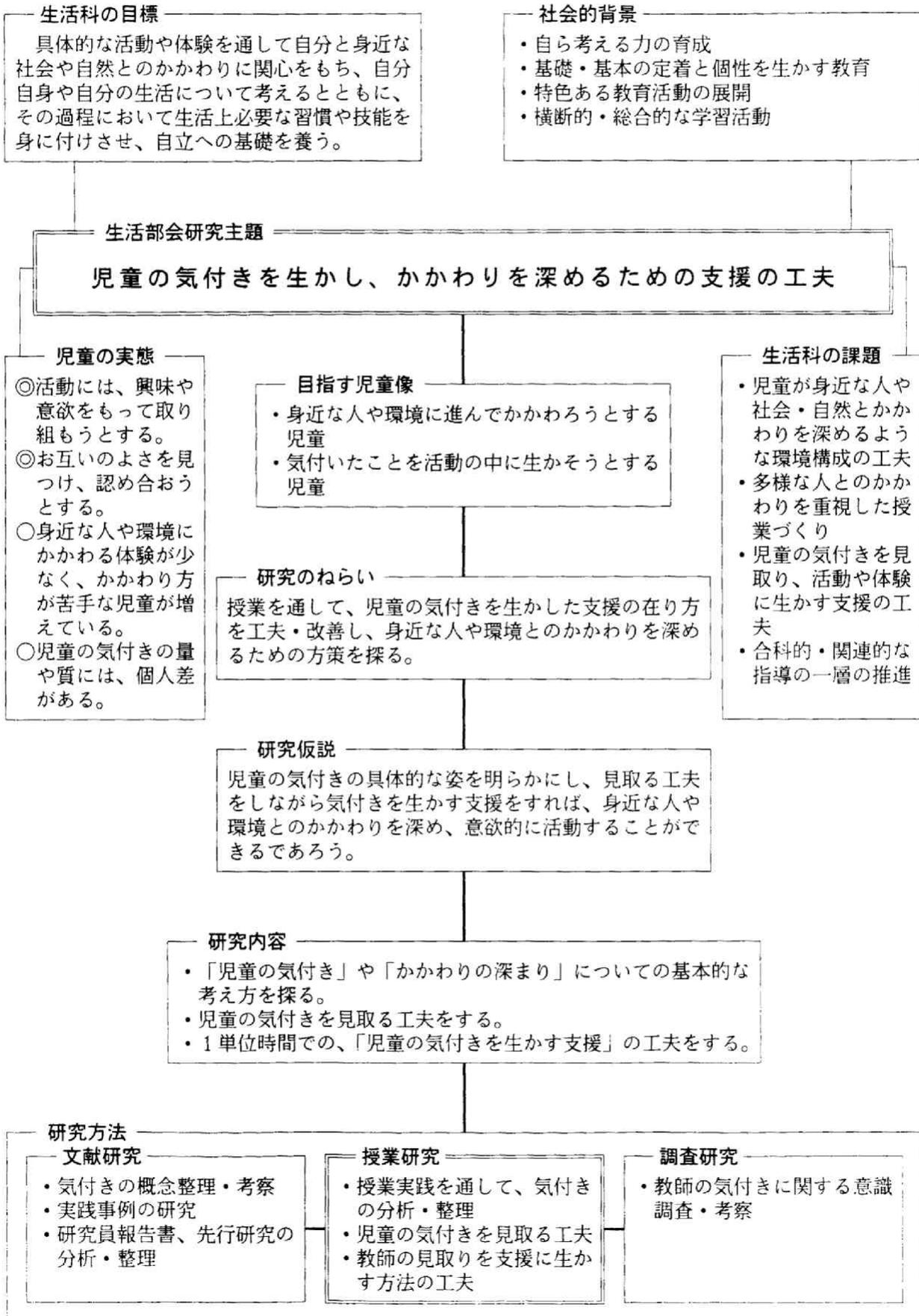
私たちは、以上のようなことから、気づきの概念を明確にするとともに、気づきを的確に見取る手だてを考え、児童の気づきを活動や体験の中で生かし、身近な人や環境とのかかわりを深めることができるような支援の在り方を明らかにすることが重要であると考え、本研究主題を設定した。

そして、児童の具体的な姿を通して検証していきたいと考えた。



(1年「公園で遊ぼう」の単元で身近な人とかかわりを深めている子どもたち)

II 研究の構想



Ⅲ 研究の内容及び方法

1 研究の内容

研究主題に迫るために、次の3点に重点を置いて研究を進めることとした。

- | | |
|-------------------------|--|
| 気付きを生かし、
かかわりを深めるために | (1) 「児童の気付き」や「かかわりの深まり」についての基本的な考え方を探る。
(2) 児童の気付きを見取る工夫をする。
(3) 1単位時間での、「児童の気付きを生かす支援」の工夫をする。 |
|-------------------------|--|

2 研究の方法

- (1) 文献や先行研究を通して、「気付き」や「かかわりの深まり」について分析・整理する。
- (2) 教師を対象にした調査をし、「気付きの見取り」と「気付きを見取ったときの支援」の実態を探る。
- (3) 授業実践を通して、見取りの工夫や気付きを生かした支援の工夫と、そのことによるかかわりの深まりを検証していく。

Ⅳ 研究の結果と考察

1 研究の基本的なとらえ方

- (1) 「児童の気付き」や「かかわりの深まり」についての基本的な考え方

文献や先行研究などを参考にしながら、「気付き」「かかわりを深める児童の姿」を、以下のようにとらえることとした。

「気付き」とは

児童は、様々な発見をしたり、感動をしたりしながら活動をしている。それは、大人から見れば些細なことであっても、児童にとっては新しい意識の芽生えであり、活動の契機となりうるものである。

「気付き」は、他者から教えられるものではなく、児童自身が具体的な活動を通して主体的に獲得するものである。それらは情緒的な側面を伴うものが多く、活動を繰り返し行っていく中で、質的に変化することもあると考えられる。

「かかわりを深める」児童の姿

- 自分の思いや願いが明確になってくる。

町探検で、初めのうち、ただ「～に行ってみよう」と漠然と思っていただけの児童が、活動を繰り返すうちに段々と「次は～でこういうことをしてみよう」と強く願うようになる。活動の導入段階においての、対象に対する漠然とした興味や関心が、活動を進めて行くにつれ、明確な思いや願いに変化していくのである。これは、児童が対象に対して主体的にかかわろうとしている意識の表れである。

- 対象に対し、愛着や帰属意識、仲間意識など、情緒的な感情をもつようになる。

飼育活動で、触れることを嫌がっていた児童が、やがて生き物に対して愛着をもつようになり、大切に世話をするようになる。他学年との交流活動においては、繰り返し活動することによって、相手を思う気持ちが芽生えてくる。かかわりを深めることで、それまでになかった相手に対する特別な意識や感情が生まれるのである。

- 対象に対する見方やとらえ方が変わってくる。

植物の観察においては、活動を進めていくにつれて、より細かいところまで目を向けるようになっていたり、その作り方や育て方に疑問をもったりするようになる。探検活動においても、段々と目のつけ所や感じ方が変わってくるなど、対象の受けとめ方が変わってくる。

- 技能面が上達する。

人とのかかわりにおいては、上手に質問できるようになったり、自分の言いたいことを伝えられるようになったりする。創作活動において、道具を使うコツが身に付いてくるなど、対象とよりスムーズにかかわる術が身に付いてくる。

- 活動が活発になり、広がりが出てくる。

おもちゃづくりの活動では、その過程を通して、次第に教え合いや協力する姿が見られるようになっていたり、クラス全体でのおもちゃ大会へと発展していったりする。栽培活動で、一生懸命世話をするようになっていたり、成長の気づきをクラスの友だちに発表したりするなど、活動に活気がでてくる。

- 活動が日常化してくる。

栽培活動で、休み時間や放課後など、進んで植物の世話をするようになるなど、決められた時間だけでなく、日常的にかかわろうとする。

以上のような考えを基本にし、以下のような視点に立って授業実践を行うこととした。

児童が活動や体験を通してとらえたものすべてを「気づき」とする。また、1単位時間でのかかわりの深まりが繰り返し行われることによって、単元全体のかかわりも深まっていくという考えに基づき、「かかわりの深まり」を

- ・ 1単位時間、または日常の短い期間での児童の変容
 - ・ 単元全体またはそれより長い期間での児童の変容
- とに分けてとらえていく。

(2) 児童の気づきを見取る工夫

気づきを生かすためにはまず必要なことは、一人一人の気づきを的確に見取ることである。私たち教師は、発言・つぶやきなどの音声表現、学習カードなどの文字や絵による表現、表情や行動などの身体表現など、様々な手だてを通して、児童の気づきを見取っていくことが求められる。しかし、実際には、教師1人対児童多数、児童の表現力の個人差などにより、一人一人の気づきを十分に見取ることができないという課題がある。

そこで、「児童の気づきを生かしかかわりを深めるための支援の工夫」という研究主題に迫るために、学習カードの活用などと合わせて、次のような気づきの見取りの工夫を行った。

① 主な気づきを予想する。

児童の実態や今までのかかわりの様子などから、活動や体験のねらいに迫る主な気づきを予想する。そのことにより、教師が意図的・計画的に児童を見るようになり、児童の気づきをより多く見取ることができる。

② 視聴覚機器を利用する。

児童は、活動中に、気付いたことをつぶやいたり教師や友達に教えたりすることがあるが、そういった気づきが十分に生かされずに終わってしまうことが多い。また、1年生の初期の段階では、気付いたことを文字で表現することができない児童もいる。そこで、視聴覚機器（テープレコーダー、デジタルカメラなど）を利用して、活動中に児童が気付いたことをとどめておけるようにする。

③ 家庭の協力を得る。

事前や事後に保護者にアンケートや感想を求め、児童の実態を把握したり、家庭の会話の様子などを教えてもらったりする。そのことにより教師が、学校では見とれなかった児童の様子を知ることができる。

④ 観察対象児を選ぶ。

1単位時間ごと及び単元全体を通して、教師が注目し、積極的に支援しかかわっていきこうとする児童を選び、個表を作成しながら意図的にその児童を見取っていく。

ア. 1単位時間でのかかわりの深まりを見取る観察対象児

前時までの気づきやかかわりの様子、1単位時間のねらい、教師の願いを考慮して選ぶ。

- (例) ・気づきはあるが、あまり自覚していない児童
 ・気づきが少ない児童
 ・次の活動の契機になるような気づきが期待できそうな児童
 ・前時での気づきを本時で生かすことが期待できそうな児童

イ. 単元全体を通してのかかわりの深まりを見取る観察対象児

その単元を通して変容してほしいと教師が願う児童を選ぶ。

- (例) ・対象とのかかわりをたくさんもってほしい児童
 ・友達とのかかわりをもって活動してほしい児童

単元名「あきとあそぼう」

観察対象児 (M・T)

単元に入る前の児童の実態

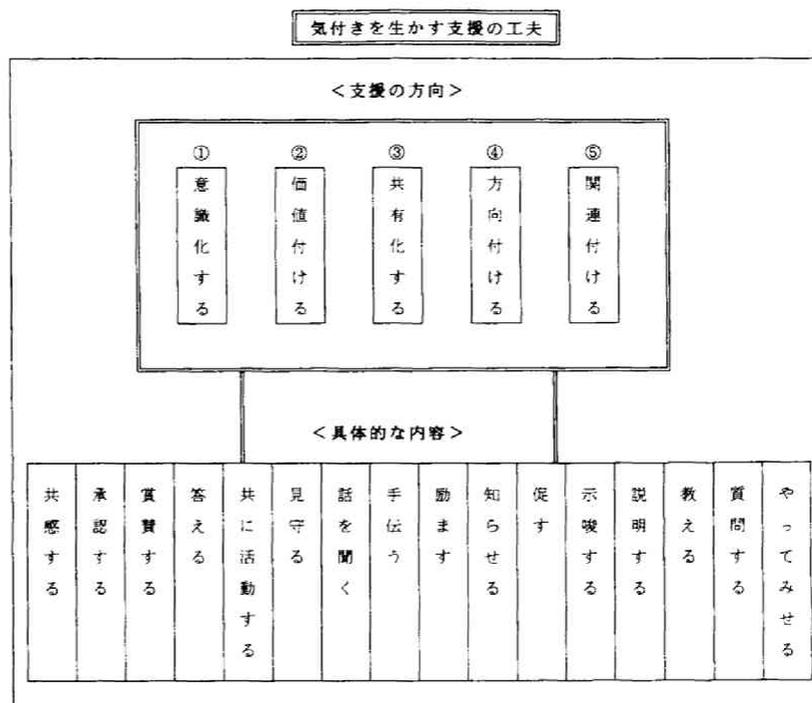
ふだんから活動的で、何事にも前向きに活動することが多い。春の『こうえんであそぼう』では、ヤゴ取りや復元住居に意欲的にかかわっていた。本単元でも諸感覚を通して季節を感じたり、自然を利用して楽しく遊んだりしてほしい。

	活動内容	支援計画		本時の児童の姿		
		本時の支援計画	期待するかかわり	気づき	支援	かかわりの変容
1 2	大久保公園で遊ぼう 11月5日	・じっくりと話を聞きながら、春の大久保公園との比較を思い起こしながら、季節の変化への気づきを深めたい。 ・ゲートボールへの興味が高まるように、ほめたり、共に活動する。	季節の変化を感じ取ってほしい。そのために、諸感覚を使って、自然物とかかわってほしい。積極的に、高齢者とかかわってほしい。	友だちがゲートボールする様子を見て、「もち方が違うんだよ」と気づき、また、「強く打つんだよ」と気づきをコツとして教えていた。	「そうか、そうやって持つのか。なるほどね。抑さえてもらってよかったね。だからMくんは上手なんだね」と、Mくんと教えてもらっている児童に話しかけた。(価値付ける・共有化する)	一層意欲的にゲートボールに取り組んでいた。緊張気味な表情から、徐々にゆとりをもった笑顔が見られるようになった。

(3) 1 単位時間での、「児童の気づきを生かす支援」の工夫

気づきを生かし、かかわりを深める支援をすることで、児童が対象へかかわる意欲や自信をもち、かかわりの質を深めたり、新たな活動への契機としたりすることができる。同時に、一人一人の気づきを生かすことで、他の児童のかかわり方も深めることができる。児童の気づきを生かすためには、その気づきを次へつなげるという方向性をもった支援を明らかにすることが大切になってくる。

そこで、先行研究の中で研究されてきた支援の在り方をもとに、児童の気づきの生かし方を、「意識化する」「価値付ける」「共有化する」「方向付ける」「関連付ける」の5点にしぼり、支援の有効性やかかわりの深まりを、授業実践の中で検証していくことにした。また、活動計画作成の際には、1 単位時間ごとに、どこに支援の重点を置くかを考慮し、意図的・計画的に支援ができるように工夫した。



① 意識化する

児童は、教師の目から見て、何かに気付いていても自分自身が、自覚していないことがある。その気づきを自覚できるようにしていくこと。また、教師が働きかけることで、児童の気づきを促すこと。

② 価値付ける

児童の気づきに対して、その素晴らしさや大切さを、教えていくこと。

③ 共有化する

児童の気づきを本人だけにとどめず、他の児童、グループ、クラスなどに広めること。

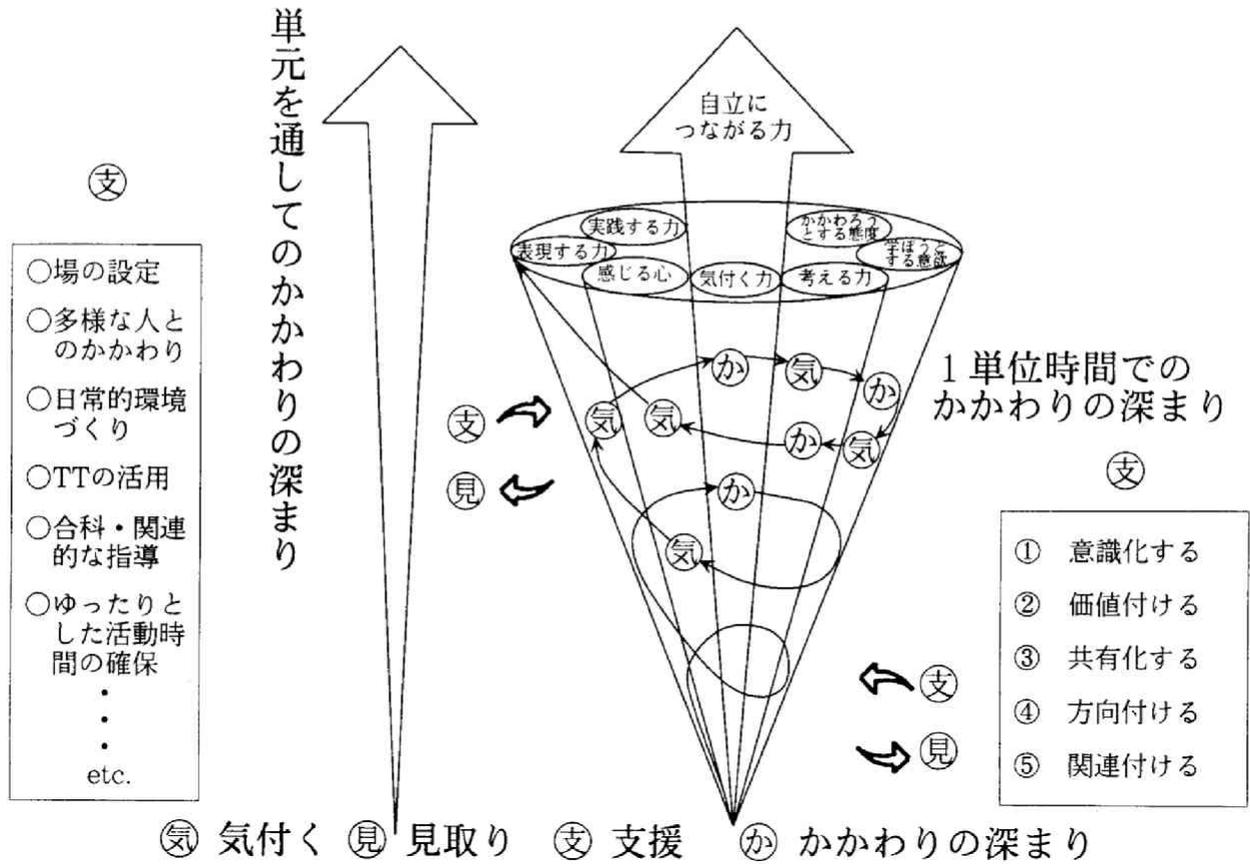
④ 方向付ける

児童の気づきから、どのように活動していくか、考えるように促すこと。

⑤ 関連付ける

児童の気づきを、それまでの自分の経験や知識とつながりがあることを知らせること。また、友達の気づきと比べたり、合わせたりするようになっていくこと。

気づきを生かし、かかわりを深める過程を図に表すと以下ようになる。



2 実態調査

(1) 調査の目的

「気付きの見取り」と「気付きを見取ったときの支援」の実態を探るために、日々生活科の授業を行っている低学年の教師を対象に意識調査をした。

(2) 調査の方法

調査対象 都内公立小学校1・2年担任教師 回答数(437名)

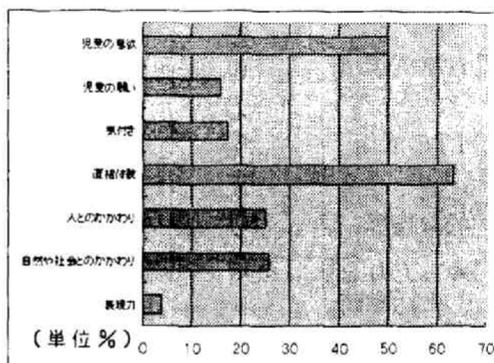
調査方法 多肢選択法及び自由記述

(3) 結果と考察

問1 生活科の授業の中で、何を大切にしていますか。(2つに○)

児童の意欲 児童の願い 気付き
直接体験 人とのかかわり
自然や社会とのかかわり 表現力 その他

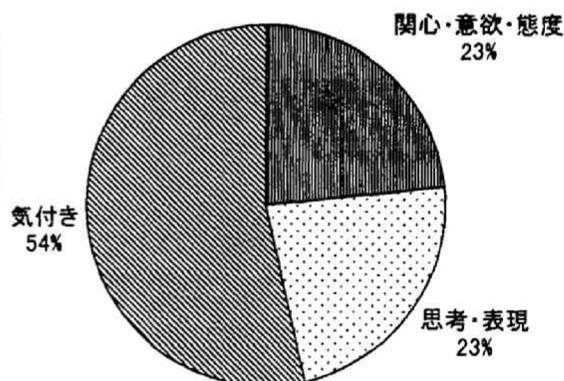
「児童の意欲」や「直接体験」が多い。体験や活動を通して学ぶという生活科の基本的な部分での意識が高いことが分かる。



問2 生活科の評価で、一番難しいのはどれですか。(1つに○)

関心・意欲・態度 思考・表現 気付き

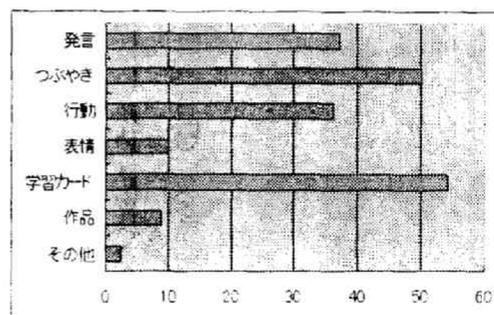
この質問には「気付き」と答えた人が半数以上占めている。活動や体験を通して児童がとらえた気付きを的確に見取っていくことに、苦心していることが分かる。



問3 活科の授業において、児童の気付きをどのようなものから見取っていますか。(2つに○)

発言 つぶやき 行動 表現
学習カード 作品 その他

「学習カード」・「つぶやき」と答えた人が多い。「学習カード」は、形として残るものであり、学習後でも評価することができる。書いて表現させることを通して、児童一人一人の気付きを確実に見取ろうとしていることが分かる。表現することは、自分自身への振り返りにもつながる。「つぶやき」は、形として残ることはないのも、十分に見取れないこともある。しかし、児童の気付きの内容を理解するためにも、活動の中での児童の何気ない表現からきめ細かく見取ろうと努力している姿がうかがえる。教師は児童とともに



活動し会話する中で、児童の様子をよく見て聞き取ろうとしていることが分かる。

問4 児童の気付きを見取るために工夫していることや困っていることがあったら教えてください。(自由記述)

以下は、多かった回答

<工夫>

- ・ワークシート・カードの活用と工夫
- ・児童の様子をよく見る
- ・一緒に活動する
- ・T・Tを組む
- ・一覧表に記入する

<困っていること>

- ・担任一人では見とれない
- ・児童の人数が多い
- ・時間が少ない
- ・見取りが難しい
- ・場が広がると把握できない
- ・活発な児童に目がいきやすい
- ・表現できない児童・自覚できない児童がいる

ワークシートやカードなど、形として残るものから確実に気付きを見取っていかようとしている人が多い。しかし、「担任一人では見とれない。」「気付き自体を見取ることが難しい。」「時間・人数・場の広がりなどにより見取れる子どもの数に限りがある。」などの悩みがあると答えた人が多く、限られた時間内で多くの児童の気付きを正確に見取ることに苦心している実態があるといえる。

問5 児童の気付きを見取ったとき、どんなこと(支援)をしていますか。(自由記述)

以下は、多かった回答

- ・児童の自信や意欲につながるようにほめる
- ・クラス全体に広める
- ・認め、励ます

上記の回答以外にも、「言葉かけを工夫する」など、支援の工夫が見られたが、ほとんどの人が上記の回答に集中していた。

以上の調査結果から、児童の気付きを的確に見取り支援につなげていくことに困難さを感じている教師が多く、気付きの見取りと生かし方が課題となっていることが分かった。

3 授業実践

第1学年

大単元名 『6年生となかよし』

小単元名 『6年生ともっとなかよしになろう』

(1) 単元のねらい

- 6年生ともっと親しくなり、さらに仲良く遊んだり一緒に活動したりする。
- 6年生が1年生のためにたくさんのお世話をしてくれたことに気付く。
- 6年生に対する自分たちの思いを素直に伝える。
- 6年生のためにできることが増えてきた自分に気付く。

(2) 単元設定の理由

本単元は、次の3つの理由から設定した。

- ・人とのかかわりを、まず、すぐ身近な異学年児童から学んでほしい。
- ・なるべく異学年の児童と接する機会を設け、一緒に遊んだり活動したりする体験をしてほしい。
- ・入学してからの6年生とのかかわりを振り返った上で、これからのかかわり方を考えていくことで、さらに6年生とのきずなを強めていってほしい。

「6年生となかよし」の単元は、「6年生ともっとなかよしになろう」と「6年生ありがとう」の2つの小単元に分けて構成した。「6年生ともっとなかよしになろう」は、6年生とのかかわりの質が変わり始める2学期の初めに実施し、その学習を生かして、その後の日常生活でのかかわりを深めていくようなきっかけの活動とする。「6年生ありがとう」は、3学期の2～3月に実施する。本単元は、このような2つの小単元に分け、これらの間を約4か月間空けて、その間に日々の生活の中で一層気付きを増やし、かかわりを深めるようにと考えて構成した。

(3) 期待する児童の姿

＜人とのかかわり＞

- ・6年生に対して一層親しみをもつ。
- ・進んで6年生と一緒に活動しようとする。
- ・自分のできるお手伝いをしようとする。
- ・友達のよさに気付き、ほめたり認めたりする。
- ・友達と協力しながら集会の準備をする。

＜自分自身について＞

- ・6年生に手伝ってもらわなくても自分でできるようになったことがあることに気付き、自信をもって行動しようとする。

(4) 研究主題と本単元とのかかわり

児童の気付き

① 見取りの工夫

ア. 短冊やカードなどに書く、発表するなど多様な方法で気付きを表現させる。

イ. 日常生活で、6年生とのかかわりの様子を意識的に観察して記録する。

ウ. より多くの目で児童の気付きを見とれるようにT・Tで指導する。

エ. 観察対象児を選び、個表を作って重点的に見取る。

- ・「1単位時間でのかかわりの深まり」についての観察対象児

さまざまな気付きができ、活動の中心になってほしい児童

- ・「単元を通してのかかわりの深まり」についての観察対象児

気付きはあるが、あまり自覚していない。1年生の友達とかかわることはできるが、異学年児童とももっとかかわれるようになってほしい児童。

② 気付きを生かす支援の工夫

ア. 「意識化する」支援

6年生とのかかわりや自分のよさへの気付きは、あるのにもかかわらず、1年生では自覚していないことが多い。それを気付かせるために、短冊に書かせたり、示唆する助言をしたりして自覚を促すようにする。

イ. 「価値付ける」支援

一人一人の気付きをほめて自信をもたせ、6年生や友達とさらに意欲的にかかわれるようにする。

ウ. 「共有化する」支援

6年生とのかかわりについては、全体でお世話になっていることもあるが個人的なことも多い。また、全体でお世話になっていることは、気付いていない児童もいる。そして、自分自身への気付きも自覚していないことが多い。そこで、教師が児童の気付きを学級に広めたり、友達の気付きを相互評価することによって共有化したりして、自分自身が気付くきっかけとしたい。

エ. 「方向付ける」支援

6年生を招く集会の準備では、同じ係の友達と互いに教え合うように示唆し、よりよくするにはどうしたらよいかを自分たちで工夫するように促す。

オ. 「関連付ける」支援

6年生を招く集会の計画を立てるときには、以前に行った「学級遊ぼう会」などの体験を思い出してプログラムや係を考えるように促す。

かかわりの深まり

③ 検証 観察対象児の個表を活用し、変容を見取っていく。

(5) 活動計画 (10時間扱い)

時	児 童 の 活 動	予 想 さ れ る 主 な 気 付 き
①	<div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin-bottom: 5px;">6年生にお世話になったことを思い出そう</div> <ul style="list-style-type: none"> ・短冊カードに書く。 ・掲示した短冊を見て話し合う。 	<ul style="list-style-type: none"> ・朝、教室にきたとき、支度をするのを手伝ってもらったよ。 ・休み時間に遊んでくれたよ。 ・教室の掃除をしてくれたよ。 ・全校遠足のとき、遊んでくれたよ。 ・運動会のときに、お世話をしてくれたよ。 ・学校に連れてきてくれたよ。 ・地域班集会で、一緒に帰ったよ。 ・朝顔の支柱を立てるのを手伝ってくれたよ。
②	<div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin-bottom: 5px;">6年生ともっと仲良しになる方法を考えよう</div> <ul style="list-style-type: none"> ・仲良しになる方法を話し合う。 	<ul style="list-style-type: none"> ・一緒に遊ぼう。 ・プレゼントをあげよう。 ・お手紙を書こう。 ・6年生の名前を覚えたいな。 ・上手になったことを見てもらおう。
③ ④ ⑤ ⑥	<div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin-bottom: 5px;">一緒に遊ぶ会の計画を立てよう</div>	<ul style="list-style-type: none"> ・係分担 司会、始めの言葉、終わりの言葉、ゲームの説明の係などが必要だ。 ・みんなに分かるように、ゆっくり言うといいよ。 ・大きな声でゆっくり言わないと聞こえないね。
⑦	<div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin-bottom: 5px;">仲良し集会をしよう</div> <ul style="list-style-type: none"> ・始めの言葉、ゲーム、終わりの言葉 	<ul style="list-style-type: none"> ・6年生の〇〇さんはゲームが上手だったよ。 ・6年生の名前が分かったよ。 ・〇〇さんがぼくの名前を覚えてくれたよ。 ・〇〇君て、優しいよ。 ・お姉さんと手をつないだら、温かかったよ。
⑧	<div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin-bottom: 5px;">仲良し集会を振り返ろう</div> <ul style="list-style-type: none"> ・心に残ったことをカードに書く。 	<ul style="list-style-type: none"> ・〇〇さんと友達になってうれしい。 ・集会の司会が上手にできてよかった。 ・6年生が喜んでくれてよかった。
⑨ ⑩	<div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin-bottom: 5px;">これから6年生とどんなことをしたいかな。どんなことをしてあげたいかな</div> <ul style="list-style-type: none"> ・どんなことをしたいか話す。 ・同じ思いの児童が集まって、グループを作って活動する。 	<ul style="list-style-type: none"> ・6年生とまた遊びたい。 ・絵を描いてプレゼントしたい。 ・折り紙を折ってプレゼントしたい。 ・うちわを作って贈りたい。 ・きれいなカードを作って渡したい。 ・お手紙を書きたい。 ・〇〇君に、サッカーを覚えてもらいたい。 ・6年生のお手伝いをしたい。

(他教科との関連：生活⇔他教科、生活⇒他教科、生活⇔他教科)

支 援 と 評 価 (★気づきを生かす支援) (◎は評価)	支 援 の 工 夫				
	意 識 化 す る	価 値 付 け る	共 有 化 す る	方 向 付 け る	関 連 付 け る
<p>・6年生の顔と名前がわかるように、写真を掲示しておく。</p> <p>★児童の気づきをほめたり、共感したりする。</p> <p>★思い出せない児童には、友達の気づきを知らせて同じことがなかったか問いかける。</p> <p>★同じ気づきごとに分類して掲示したカードに着目させて、意識化、共有化を促す。</p> <p>◎ (気) たくさんお世話になったことに気付いたか。 ⇨国語：『話すこと・聞くこと』 ⇨道徳：『尊敬・感謝』</p>	○	○	○		
<p>・お互いによく知り合える方法を考えさせる。</p> <p>★一人一人の気づきをほめ、共感しながら、他の児童にも知らせるように促す。</p> <p>◎ (関) 意欲的に方法を考えたか。</p>		○		○	
<p>・全員が楽しめること、時間を考えることを知らせる。</p> <p>★以前に行った「学級遊ぼう会」の体験をもとに考えるように促す。</p> <p>・スムーズにできるように係ごとに練習する場をつくる。</p> <p>★上手な言い方、やり方をほめ、他の児童にも知らせる。</p> <p>★系の友達と互いに教え合うように示唆する。</p> <p>◎ (関) 集会の準備に、意欲的に取り組めたか。 ⇨国語：『話すこと・聞くこと』 ⇨学級活動</p>		○	○	○	○
<p>・集会が順調に進行するように、手伝ったり助言したりする。</p> <p>★児童一人一人の気づきをほめ、共感して受け止める。</p> <p>◎ (関) 楽しく集会に参加していたか。</p>	○	○			
<p>★児童一人一人の気づきをほめ、共感して受け止める。</p> <p>◎ (気) 仲良し集会の体験から、人とのかわりに気付いたり、自分自身について気付いたりすることができたか。 ⇨国語：『書くこと』</p>	○	○			
<p>・手紙やプレゼント作りに必要な材料を用意する。</p> <p>★どんなことを伝えたいのかを問いかける。</p> <p>★6年生が喜んでくれるような工夫をするように促す。</p> <p>★考え付かない児童には、友達の考えを紹介したり、友達の活動を見るように示唆する。</p> <p>◎ (関) 自分の思いをもって行動していたか。</p> <p>◎ (思・表) 自分の思いを6年生に伝えようと工夫していたか。 ⇨国語：『書くこと』 ⇨図工：『表現』</p>	○			○	○

(6) 気付きを生かした支援とかかわりの深まり (~~~~~ は、具体的な支援)

① 「1単位時間でのかかわりの深まり」について

ア. 意識化する支援

<Y児の例>

Y児は、日頃あまり気付きがなく、1年生の友達や6年生の児童とのかかわりも少ない児童である。「6年生にお世話になったことを思い出そう」の活動では、「どんなお世話をしてもらったかな。」と問い掛けても思い出せないのではないかと予想されたので、意図的に支援していこうと考えた。

「4月は、6年生が毎朝来てくれたね。どんなことをしてもらったかな。」とY児に問い掛けた。すると、Y児は、「朝、教室から来ると6年生のお兄さんが『おはよう。』って言ってくれたよ。それで、ランドセルから本やノートを出すのを一緒にやってくれたんだ。」と思い出し、朝の支度のことを短冊に書いた。そして、この気付きをきっかけに、鬼ごっこをして遊んでもらったことや校庭でサッカーを覚えてもらったことにも気付き、6年生にお世話になったことを自覚していった。

イ. 価値付ける支援

<M児の例>

M児は、日頃さまざまな気付きをし、1年生の友達や異学年の児童とも積極的にかかわる児童である。「6年生にお世話になったことを思い出そう」の活動では、6年生にお世話になったことをたくさん思い出し、活動の中心になるであろうと予想して支援することにしたM児は、朝の支度を手伝ってくれたこと、遊んでもらったことなどを9枚の短冊に書いた。「とてもよく覚えていたね。」とほめたところ、M児は、自信をもち、友達に自分の短冊を見せて、気付きを広めたり、友達の気付きを促したりするようになった。

ウ. 方向付ける支援

<K児の例>

「一緒に遊ぶ会の計画を立てよう」の活動の場面では、日頃気付きが多く、友達のよさを認めることのできるK児を中心に支援し、活動を進めていくことにした。6年生と遊ぶ会の準備では、司会や始めの言葉などそれぞれの係ごとに練習をするが、その活動の場面で、K児が友達の言い方のよいところに気付くのではないかと予想したからである。

K児は、終わりの言葉の係であったが、友達と練習している中で、「○○さんの言い方が上手だね。」という気付きをした。そこで、その気付きをほめ、友達どうして上手なところを見つけ合ったり、こうするともっとよくなるということを教え合うように助言した。そして、聞いている人がよくわかるように自分たちで工夫するように促した。すると、K児は、終わりの言葉の係の友達に「一人ずつ順番に言葉を言って、みんなで聞いてあげようよ。」と呼び掛けた。そして、このようなやり方で「もう少し大きい声で言ったら。」とか「ゆっくり言っていて分かりやすいよ。」などと話し合いながら練習するようになった。

② 「単元を通してのかかわりの深まり」について

価値付ける支援・方向付ける支援

＜S児の例＞

S児は、日頃気付きはあるが、あまり自覚していないことが多い。1年生の友達とはかかわれるが、異学年の児童とのかかわりは少なく、休み時間に遊ぶ姿は、ほとんど見られなかった。だが、異学年の児童と仲良くなりたいという意欲はもっている。そこで、本小単元の活動をきっかけにして、6年生や他学年の児童とのかかわりを広げてほしいという教師の願いに基づいて支援していくことにした。

ア. 「仲良し集会」の活動で

集会では、夢中になって6年生と鬼ごっこをしたり、手をつないで走り回っている姿が見られた。集会の後で、「一緒に遊んでよかった。おもしろかった。」という気付きをした。そこで、「よかったね。」と共感して受け止め、「今度は、休み時間に校庭で一緒に遊んだら。」と促した。

イ. 「6年生にどんなことをしてあげたいかな」の活動で

6年生が移動教室に出かけている3日間、6年生の教室の金魚に餌をあげたいという思いをもち、餌やりをした。S児は、金魚に「おはよう。」と声をかけながら餌をやり「口をパクパクしているね。」とつぶやいた。「きっと、S君に『ありがとう』って言っているんだよ。とてもいいことをしてあげているね。とほめたところ、一層意欲的になった。」

ウ. 本小単元の活動後の様子

6年生から餌やりのお礼を言われて、S児は人の役に立ったことを知り、自分に自信をもつようになってきた。また、休み時間に異学年の児童とドッジボールをして遊ぶ姿が見られるようになった。

7 活動を終えて

短冊に書かせて気付きを表現させたことで、6年生にたくさんお世話になったことに気付くことができた。そして、その気付きをもとに、もっと仲良くなりたいという気持ちをもって6年生と遊ぶ集会をした。その中で、6年生の優しさや一緒に遊ぶ楽しさに気付き、一層親しくかかわりたいという意欲を高めていった。集会の後の「これから6年生に何をしてあげたいかな」の活動では、6年生のお手伝いをしたり、プレゼントをあげたいなどの思いが出て、児童は、それぞれ自分のやりたいことに取り組んだ。お手伝いグループの児童は6年生が移動教室に行っている間、6年生の教室の金魚に餌をやったり、花壇の水やりをしたりした。6年生は、1年生のプレゼントやお手伝いを喜んでくれて、そのお礼にと1年生の給食の準備をしにきてくれた。このようにして、日常生活でも、だんだんにかかわりは深まってきた。6年生とのかかわりを通して、児童は、自分が人の役に立つことの喜びを感じ、自分からも周りの人に対して何かしてあげたいという気持ちが芽生えてきている。

本小単元では、児童の気付きを見取るために、T・Tでの指導や観察対象児の個表の活用などを試みてきたが、活動中に多数の児童の気付きをよりの確に見とれるように、今後もさらに工夫を重ねていきたい。また、事前に支援計画を立てておいても、活動中にタイミングよく支援することが難しい場合もあったので、適時に適切な支援を行うための工夫も考えていく必要があると思う。

(1) 単元のねらい

- 自分で材料を集めて、楽しいおもちゃを作ったり、それを使ってみんなと遊んだりする。
- 自分たちで遊び方を工夫しながら、友だちや身近な人たちとかかわり、楽しく遊ぶ。
- 友達や自分自身のよさに気づき、お互いに認めあって、活動する。

(2) 単元設定の理由

児童が、身近にある材料を使っておもちゃを作り、それで楽しく遊ぶことを目標に単元を設定した。自分の作りたいおもちゃを自分で決めて、どの児童にも自分の思いや願いで作りに上げることの喜びを味わわせることができ、また、友達と一緒に作ったり、出来上がったおもちゃでいろいろな児童がリーダーになって遊んだり、楽しく遊べる活動を通して、友だちとのかかわりを深め広げることができると考えた。

活動のきっかけとして、夏休みに作ってきた作品や保護者に教えてもらったおもちゃ、さらに友だちから教えてもらったおもちゃを提示することで児童の意欲を高めるようにした。そうすることによって、自分でも作ってみようとか友だちとも協力して作ってみたいなどという気持ちをもたせることができると考えた。さらに、その後は、児童の願いに応じて、一年生を招待して遊ばせることや、二年生全体との交流や保護者との交流などへと広め、自分たちで作ったおもちゃを教えてあげたり、一緒に遊んだりすることを通して、さらに多くの人たちとかかわりを深めるようにしていきたい。

(3) 期待する児童の姿

<人とかかわり>

- ・友だちのよさを、ほめたり、認めたりする。
- ・友だちに教えたり、教えてもらったりする。
- ・1年生や保護者に、進んで教えようとする。

<環境とかかわり>

- ・自分から進んで材料を集め、作りたいおもちゃを作ろうとする。
- ・道具の使い方を知り、安全に使おうとする。
- ・遊びのルールを考え、より楽しく遊べるように工夫する。

<自分自身について>

- ・作りたいおもちゃの作り方を調べたり、友だちに聞いたりして、自分で最後まで作ろうとする。
- ・自分のよさに気づき、自信をもって活動しようとする。
- ・気付いたことやできるようになったことを、生活の中に生かそうとする。



(4) 研究主題と本単元のかかわり

児童の気付き

① 見取りの工夫

ア. 作り始めると黙って活動することが多いので、一緒に活動する中で、活動の様子や作品・発言・つぶやき・会話・表情などから見取る。

イ. 観察対象児を選び、個表を作って重点的に見取る。

ウ. 保護者アンケートの活用

家庭で、どのような会話があったのかを、アンケートという形で保護者に記入してもらい、児童の様子を教えてもらう。

② 気付きを生かす支援の工夫

ア. 「意識化する」支援

自分で作ったおもちゃがよりよく動いたり、飛んだりするように児童は、作りながらなおしたりしてさまざまな工夫をしている。どうしたらうまくできるようになったのかその気付きを自覚していない児童もいる。言葉で表現させることによってその気付きを自覚させる。

イ. 「価値付ける」支援

おもちゃができるとでき映えばかりに気を取られ、自分のおもちゃのよさやすばらしさ、独創性に気付いていない児童もいる。そこで、一人一人の作品のよさをほめて、その価値に気付かせ一層自信をもって活動できるようにする。

ウ. 「共有化する」支援

一緒に作っていても友だちのおもちゃのよさや工夫に気付かない児童もいる。それを気付かせるために教師が紹介したり、発表の場を作り、グループやクラスに広めたりする。

エ. 「方向付ける」支援

招待して遊ぶ活動では、どのようにしたら楽しく遊んでもらえるかを考えるよう働きかけ、グループで話し合ったり、分担して作業をしたりして協力するなかで、かかわりが深まるようにする。

オ. 「関連付ける」支援

おもちゃを作るときは、幼稚園などで作った経験を思い出したり、図工で作った作品を参考にさせたりする。自分たちで遊んだり、招待して遊んだりするときは、全校でのおまつりや児童館でのおまつりの経験を生かしてより楽しい遊びを考えるように促す。

かかわりの深まり

③ 検証 観察対象児の個表を活用し、変容を見取っていく。

(5) 活動計画 (12時間扱い)

時	児 童 の 活 動	予 想 さ れ る 主 な 気 付 き
① ②	<div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin-bottom: 10px;"> 手作りのおもちゃであそぼう </div> <ul style="list-style-type: none"> ・家の人が教えてくれたおもちゃで遊ぶ。 ・知っているおもちゃの作り方を紹介する。 ・作ったおもちゃで遊ぶ。 	<ul style="list-style-type: none"> ・家の人が教えてくれたおもちゃおもしろい。 ・こんなふうに遊ぶともっとおもしろくなるよ。 ・〇〇君のつくってきたおもちゃもおもしろいね。 ・こんな材料でできるんだ。
③ ④ ⑤ ⑥ ⑦ ⑧	<div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin-bottom: 10px;"> 自分のおもちゃを作ってあそぼう </div> <ul style="list-style-type: none"> ・おもちゃづくりの計画をたてる。 ・材料を準備する。 ・工夫して作る。 ・友達と協力しながら、作ったり遊んだりする。 ・おもちゃを作ったり、遊んだりする中で、自分や友達の作品の良いところを知る。 ・作ったおもちゃで、みんなで遊ぶ。 	<ul style="list-style-type: none"> ・先生がくれたプリントの糸電話が、簡単に作れてよさそうだな。 ・夏休みの作品で、4年生がすごく長いわりばしでぼうを作ってきていたよ。ぜひ、あれを作りたいな。 ・ハエ取りガエル作りたいな。うまくできるかどうかおうちでも作ってみよう。 ・わりばしをいっぱい用意しよう。 ・〇〇君の作った竹とんぼいいな。僕にも教えて。 ・魚つりでこんなふうにゲームにするとおもしろそうだよ。仕事分担をしよう。 ・わなげが、軽すぎてうまく飛ばないよ。 ・かんぱっくりで、コースを決めて競争するとおもしろいよ。
⑨ ⑩ ⑪	<div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin-bottom: 10px;"> 招待して、遊ぼう </div> <ul style="list-style-type: none"> ・誰を招待して遊びたいか話し合う。 ・グループで協力して準備をする。 ・招待した人と楽しく遊ぶ。 	<ul style="list-style-type: none"> ・おみやげも作るんだから、いっぱい作らなきゃ。 ・こんなゲームにすると1年生だって楽しめるよ。 ・たくさんお客さんがきてくれて、お店が繁盛してうれしかったよ。 ・1年生がすごく喜んでくれたよ。お友達もできたよ。
⑫	<div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin-bottom: 10px;"> おもちゃ作りのまとめをしよう </div> <ul style="list-style-type: none"> ・おもちゃ新聞を作り、絵・文などを入れてまとめをする。 	<ul style="list-style-type: none"> ・1年生がやり方を聞いて上手に作ったよ。 ・一番おもしろかったことをかこう。 ・よく分かるように絵も入れてかこう。 ・自分たちで作るのも楽しかったけど、一年生に教えて遊ぶのも楽しかったね。

(他教科との関連：生活⇔他教科、生活⇒他教科、生活⇔他教科)

支 援 と 評 価 (★気付きを生かす支援) (◎は評価)	支援の工夫				
	意識化する	価値付ける	共有化する	方向付ける	関連付ける
<ul style="list-style-type: none"> ・保護者が教えてくれたおもちゃで遊ぶ。 ★児童の気付きや活動のよさをほめたり、共感したりする。 ◎ (関) いろいろなおもちゃに関心を示し、それを使って楽しく遊べたか。 <p style="text-align: center;">⇔国語：『聞くこと』</p>	○	○			
<ul style="list-style-type: none"> ・おもちゃ作りが順調にできるように、本や教材を用意したり寝助言したりする。 ・道具の安全な使い方を教える。 ★その児童なりの思いや気付きを聞き出しながら助言する。 ★幼稚園や図工で作って楽しかったおもちゃも思い出すよう促す。 ★友だちと一緒に作るよさや話し合うよさも紹介し、みんなに広める。 ★作って遊ぶ、遊びながら作る中の児童の気付きを大切にする。 ★児童の工夫やがんばりによさを認め、全体にも広める。 ◎ (気) 友だちや自分のおもちゃのよさに気付いたか。 ◎ (思・表) 自分の発想を生かして楽しいおもちゃを作ることができたか。 ◎ (関) 友だちと協力して、作ったり遊んだりすることができたか。 <p style="text-align: center;">⇔図工：『表現』 ⇔道徳：『整理整頓』</p>	○	○	○	○	○
<ul style="list-style-type: none"> ・招待するのに必要な材料を準備する。 ★全校で行ったおまつりや児童館のおまつりの体験から考えるよう促す。 ★やさしく教えたり、仲良く遊んだりしている児童をほめる。 ◎ (関) 積極的に参加していたか。 ◎ (気) 一年生との遊びの体験から、人とのかわりに気付くことができたか。 <p style="text-align: center;">⇔国語：『話すこと』 ⇔道徳：『協力』</p>		○		○	○
<ul style="list-style-type: none"> ・新聞の作り方の基本を教える。 ★どんなことを書きたいのかを問いかけ、意識化させる。 ★絵を入れたりして、読みやすい新聞になるような工夫を促す。 ◎ (思・表) 楽しかったこと・がんばったことなどを表現することができたか。 <p style="text-align: center;">⇔国語：『書くこと』</p>	○			○	

(6) 気付きを生かした支援とかかわりの深まり () は、具体的な支援)

① 「1単位時間でのかかわりの深まり」について

ア. 方向付ける支援

<Y児の例>

Y児は、図工の時間でも何を作りたいのなかなか決まらず、友だちのやっているのを見てようやく作り始めるという児童である。作ることが苦手という意識があるので、「自分の作りたいおもちゃを作ろう。」といってもなかなか取り組めないのではないかと予想されたので、意図的に支援していこうと考えて選んだ。

自分の作りたいおもちゃを決める場面で「どんなおもちゃを作りたいの。糸電話もおもしろそうだよ。」とプリントを見ながら、Y児に問いかけた。しばらく考えた後、「雨の日にみんなでよく遊ぶこまを作ってみたい。」と答えた。割りばしを芯にして折り紙を巻き付けていったが、あまりうまく回らなかった。そこで、教師も一緒に作った。「先生のよく回る。」というので、「どこが違うかな。」と問いかけると「きれいにたくさん巻いてある。」という気付きがあった。そこでY児の手を取って、巻き方を何度か繰り返すと上手にできるようになり、うまく回った。そのことが大きな喜びとなり何個も作って楽しんでた。

イ. 共有化する支援

<N児の例>

N児は、様々な気付きができ、意欲的に活動できる児童である。作っては遊び、遊んではよりよいものに作りかえて遊ぶ活動の中心になるであろうと予想して支援していくことにした。N児は、竹とんぼを作って遊んでいた。その後、屋外で飛ばして遊んでいるときに、羽の先を少しそらせて回すと風を受け、よく飛ぶことに気付いた。「ほんとだ。すごくいいことに気付いたね。」とほめ、教師がグループの児童に紹介したところN児の気付きがみんなに広まり、羽をそらせて飛ばして楽しんでた。

ウ. 関連付ける支援

<K児の例>

1年生を招待して遊ぶ活動では、日常生活でもいろいろな気付きができ、積極的に友だちも引っ張っていくことができるK児を中心に支援し活動を進めていくことにした。遊びのグループに分かれて準備する場面で、K児は、魚つりをやった。魚を作る係、つりざおを作る係、バケツを作る係と友だちと分担を決めて作業をし、さらに、つれた数でメダルもあげることも考えて活動していた。「もっと、何かないかな。」と考えていたので、「全校で行うお祭りや児童館のお祭りでどんなことやったかな。」と声をかけると「児童館でやったときに招待券を配っていたよ。あ、そうだ。招待券を配ると1年生がいっぱいきてくれるかも。」と気付いた。早速、招待券を作る係も決め、作り始めた。当日は、呼び込みも行い、1年生にやさしくやり方も説明し意欲的に活動していた。

② 「単元を通してのかかわりの深まり」について

価値付ける支援・方向付ける支援

<T児の例>

T児は、日頃気付きはあるが、自覚していないことが多い。道具を使って物を作ることがあまり好きではないという児童である。だが、夏休みに親子で一緒に工作を作るうちに、興味をもってきたという報告を保護者からもらった。そこで、本単元の活動をきっかけにして、さらに楽しんで活動してほしいという教師の願いに基づいて支援することにした。

ア. 「自分のおもちゃを作って遊ぼう」の活動で

何を作ろうか最初決まらなかったが、友だちに誘われて、魚つりの材料を作り始めた。割りばしにたこ糸とじしゃくを取り付け、つりざおを作っていた。一生懸命作っていたが、なかなかうまく結べなかったので、「お友だちのを見てごらん、セロテープでしっかり留めないとすぐはずれちゃうよ。」と知らせたところ友だちのを見ながら作り上げることができた。「できた。」と見せにきたので、「うまくできてよかったね。」とほめたところ、そのことでさらに自信をもって意欲的に活動できるようになった。

イ. 「招待して遊ぼう」の活動で

友だちが1年生にいろいろ教えてあげているのに、自分一人で魚を作っていたので、「作り方や分からないところを教えてあげたら。」と促したが、見ているだけで、働きかけようとしなかった。

ウ. 「おもちゃ作りのまとめをしよう」の活動で

つり糸を作って楽しかったことやグループで遊んで楽しかったことをおもちゃ新聞に書いていた。「がんばって作ったよね。遊んで楽しかったね。」とほめるととてもうれしそう表情をした。

・この単元を通してT児は、作り方を丁寧に繰り返し説明したり、やって見せたりすることによって作ることや作った物で遊ぶ楽しさを知り、やればできるんだという自分への自信をもつようになってきた。

(7) 活動を終えて

夏休みの作品や保護者に教えてもらったおもちゃなどをいろいろ提示することによって、児童がおもちゃ作りにスムーズに取り組むことができた。そして実際に作ってみることで様々な気付きが生まれ、それをもとにさらに自分なりに工夫して楽しく遊ぶことができた。

また、同じおもちゃを作りたい児童が集まって作ることによって、気付きを広め、活動も広めることができた。作ったおもちゃを使って遊ぶ活動では、みんながより楽しめる物を自分たちで考え出し、友だちと協力して分担や役割を決めて作り上げていくことにより児童同士のかかわりも深まっていった。自分たちで作ったおもちゃで1年生と一緒に遊んだり、作り方を教えてあげたりする活動を行うなかで、2年生としての自覚も生まれ、進んで1年生とかかわりをもとうとしていた。単元の始まりでは、教師も材料を用意し場を設定していたが、活動が進むにつれて児童が進んで準備し、目を輝かせて意欲的に活動するようになった。

本単元では、観察対象児の個表を作りそれを活用することを試みた。そのことにより、気付きを見取り、支援を意図的。計画的にすることでかかわりの深まりが見られた。しかし、制作活動においては場が多岐にわたり、安全面での配慮も必要なため活動中に、大勢の児童の活動を観察したり、つぶやきを拾ったりする事は難しいことが多かった。

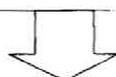
V 研究の成果と今後の課題

1 研究成果

児童の気付きの見取りや、見取った気付きを生かす支援を工夫することにより、以下のような成果を授業実践を通して得ることができた。

<授業の改善>

- 気付きを生かした単元計画・環境構成を、工夫するようになった。
- 児童の気付きを予想することによって、意図的・計画的に見取り、支援するようになった。
- 1単位時間ごとの短期的な観察対象児や、単元全体の長期的な観察対象児を決めることによって、期待する児童の姿や支援の方向が明確になり、意図的に支援することができた。
- 児童の気付きに対し、教師が「意識化」「価値付け」「共有化」「方向付け」「関連付け」という5つの方向性をもって支援することにより、活動や体験のねらいにより迫ることができた。



<児童の変容>

- 児童の気付きが増え、表現しようとする意欲も高まってきた。
- 前の活動での気付きを次の活動に自ら生かそうとする児童の姿も見られるようになった。
- 自分に自信をもって、人や環境に対して意欲的にかかわろうとする児童が増えてきた。

2 今後の課題

- ・今年度明らかにした5つの支援の方向性の他に、児童の気付きを生かす支援の方向性があるかどうかを探る。
- ・気付きを見取り、生かしていくために、よりよい個表を工夫していく。
- ・気付きを生かすために、T・Tなどを活用した有効な見取りや支援のあり方を探る。